

Top Commitment

トップコミットメント



岡藤正広

代表取締役社長

岡藤 正広

「商人魂」を原点に、社会に対する使命を果たす

果たすべき「無数の使命」

2014年6月、伊藤忠商事は新たにコーポレートメッセージ「ひとりの商人、無数の使命」を発表しました。これは企業理念である「豊かさを担う責任」に込めた意図をひもとく言葉であり、また伊藤忠商事の存在意義を広く社会に伝える当社から社会への約束の言葉でもあります。

当社は、1858年の創業から150年を超える歴史を刻んできました。日本経済は、戦後復興期から高度経済成長期、バブル経済を経て成熟期に移行する過程で産業構造も大きく変化してきました。その間、当社に限らず多くの総合商社が幾多の荒波を乗り越えて持続的に企業発展を遂げています。その理由は、「マーケットが求めている商品売る」ことに徹してきたところにあります。その過程において、単に幅広い商品を取扱い、商品を右から左へ流すだけでなく、世界中のさまざまなビジネスの「現場」で、社員一人ひとりが移り変わるマーケットニーズをいち早く察知し、絶えずそこで付加価値を提供してきたからこそ、当社は存在感を保ち続けています。これはビジネスの現場のみに限定されません。変化する社会からの要請に対応し、また「商うこと」の先に広がる豊かさを提供していくことが、社会に存続を許され続けるためには不可欠です。そして、これらはまさに、創業者である伊藤忠兵衛をはじめとする近江商人の経営哲学である「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」と一致する持続的発展の道筋であり、当社が果たすべき「使命」です。コーポレートメッセージ「ひとりの商人、無数の使命」は、このような想いと、「個の力」をはじめとする当社の強みを分かりやすい言葉に凝縮したものです。常に「商人魂」を原点に据えながら、「無数の使命」を果たしていきたいと考えています。また、当社はこの考え方の確実な実践を国際社会に表明する意味を込めて、国連グローバル・コンパクトに2009年から参加しています。

リスクを回避し、機会を生み出す

当社を取り巻く事業環境を見ると、利益規模の拡大に伴い、事業活動の規模は拡大し、事業領域も一層、多様化が進んでいます。必然的に、事業活動が社会に与える影響の範囲も、大きさも拡大しており、当社が社会に対して果たすべき「使命」は増大の一途を辿っています。例えば、新興国でバリューチェーンの広域化を図れば、それに応じて人権の尊重や環境保全といった責務も増加します。そのマネジメントを怠れば、国際社会の厳しい目に晒され、一気に企業価値を毀損しかねません。常に、事業活動の拡大に付随して増大するリスクへの目配りを怠りなく進めていかねばなりません。こうした社会からの要請への的確な対応が定着すれば、それは企業価値の永続性を担保するという意味で機会にもなり得ます。また、総合商社として培ってきた経営資源を活用し、本業と社会課題の解決を結び付ける目を鍛えれば、より多様な機会が見えてくるはずです。ビジネスと隣り合うリスクを回避し、社会課題に内在する機会を掴むためには、社員一人ひとりが、社会と共通の価値観を養うために、現場に赴き「商人」としての感度を磨き続けなければならないと考えています。

将来を支える人材の確保

わが国では、少子高齢化により中長期的に労働力人口の減少が懸念されています。とりわけ「人」が最大の経営資源である当社にとっては極めて重要な課題です。将来を担う人材の採用・育成の必要性を強く認識しています。採用にあたっては、性別・国籍に関係なく「人物本位」で採用すべきというのが私の考えです。当社で誕生した総合商社初の女性執行役員も「女性だから」ではなく、優れた能力があることが登用の理由です。また、「グローバル人材」も同様に、外国人の採用ありきでは考えていません。国籍の如何にかかわらず、各国の文化を理解・尊重し、世界中の現場に溶け込みながら「商い」をリードできる人材を採用・育成していきたいと考えています。

慢心を戒め、新たな成長ステージへ

今日、当社が「攻め」を徹底でき、好調な業績を上げることが出来るのも、「三方よし」の精神を着実に受け継ぎ、社会との共通価値を事業活動の根幹に据えてきたからだと考えています。新たな成長ステージを迎えた今こそ、決して慢心することなく、世界中の社員一人ひとりが「商人魂」を携え、社会に対する使命を果たしていくことが、伊藤忠商事の持続的発展の道筋を切り拓くことに繋がります。成長の「その先」を見据えながら、一步一步、着実に歩みを進めていきます。